


2011年度年末年始繁忙期要求書に対する 回答について③

【大学入試繁忙・特殊関係】

- 3 継越郵袋の基準を変更するなど、現場の実態に即した対策を講じること。
→ 別途情報提供のこととする。
- 4 地方の統括支店においては、郵袋を分けずに書留郵便物と大学入試関係郵便物の別に把束とし作成すること。
→ 別途情報提供のこととする。
- 5 特殊取扱郵便物の票札の表示については、統一させること。
→ 別途情報提供のこととする。
- 6 各支店では、小郵袋（書留ケース）の作成は行わず、で作成すること。
→ 別途情報提供のこととする。
- 7 大量の書留有証郵袋の到着時、仮上げを中止し個数払いによる処理は、業務上問題があると思われるため、要員の補充を行うこと。また、入試繁忙を含め、短期期間雇用社員を雇用すること。
→ 有証郵袋の差数については、お客さまからお預かりした郵便物の事故を防止するためにも重要な取組であることを理解されたい。
なお、大量に取扱いがある場合は、部内応援等により対応の予定である。

【その他】

- 1 物品類（ケースカート、薄型パレットケース、常備薬等）の配備・補充を行うこと。

→ 必要な物品類については、今後も配慮していくこととしたい。

- 2 発着ホームのオーバースライダーの故障が頻繁している。新棟同等の仕様への更改について検討すること。

→ オーバースライダーの故障については、修理対応をしているところであり、現時点で更改の予定はされていないものである。

なお、ぶつけ等による故障もあるため、丁寧な取扱いについて協力されたい。

- 3 福利・厚生施設の早期修繕等を行うこと。

→ 今後も支社等関係部署との連携を図り、対応に努めていくこととしたい。

- 4 夜間帯における救急医療体制の整備を図ること。

→ 夜間帯の怪我や急病等が発生の場合は、夜間帯の責任者の指示のもとで対応することとしている。

- 5 冬季期間中の空調設備の運用計画を明らかにさせること。

→ 採暖計画については、確定した段階で周知していくこととする。

なお、東日本大震災に伴う今冬の電力不足について、日本郵政グループ内各社で対応しているところである。郵便事業株式会社としても節電の取組を一過性なものとしてせず、継続的な省エネ活動、損益改善を目的として下期も「節電キャンペーン(H23.10.1~H24.3.31)」を展開し、電力使用量対前年15%削減に取り組むこととしているので、協力されたい。

以上

支部ボーリング大会の開催

2012年1月29日(日)に支部ボーリング大会を開催します。場所等詳細については、確定次第、改めてお知らせしますので各分会組合員の皆様の参加をお待ちしています。

支部組織部主催

第一回分会代表者会議開催！！

たくさんの仲間が大きな力となり、

職場環境と雇用をかなる！

起された。

11月12日(土)、支店2F研修室にて、組織部主催の分会代表者会議が開催された。当日は、各分会の代表者15名が集まり真剣な話し合いがなされた。

冒頭、荒牧組織部長から、今までの行動への感謝の意が述べられ、併せて、新東京支部の組織の現状報告と問題点が提

起された。主な内容として、9月末定年でたくさんのパートナー社員の組合員の方が任を終え退職された事、従って多くの組合員の減少へと繋がりが、今まで取り組んできた拡大行動が振り出しに戻ったこと。さらには、今後も様々な要素が入り組んで組織状況が悪化する可能性があることなどが報告された。

また、来年、東京で開催される定期全国大会を控え、東京全体圧倒的力強さを持つて迎えるために新東京支部に課せられた任務は重要であること。そして、

結成当初に掲げた「真に組合員の幸せ」を実現するために、組織建設の追求は重要であることが話された。

その後、各分会代表者から今後の抱負と年末繁忙期を目前にして職場環境(要員不足・適正要員の明確化等)への不安も多数発言された。全ての活動の根幹となる分会代表者の発言は頼もしく感じ取れ、今後の行動へ大きな一歩を歩んだ感じがした。

最後に、支部長より現在の郵政改革関連法案の審議の状況報告と、私達郵政グループ労働者として、この法案の行方が、我々の今後を大きく左右することが述べられ、今後の審議の状況に傾注するとともに、「みらい研」加入者拡大に全力で取り組むことが述べられ閉会となった。

余談ですが、前回、支部で開催した正社員登用一次試験対策勉強会の出題傾向は的中したそうです。

J P 労組東京 第3回フットサル大会 盛大に開催!



11月13日(日)フットサル
アレナ豊島園で、J P 労組東京フ
ットサル大会が盛大に開催され
た。東京都内と多摩地区から総勢
44チームが参加した。ガチンコ
クラスとビギナーJ、ビギナーP
クラスに分かれて日頃の練習の

新東京支部フットサルサークル
FC新東京 (F・C・S)
目標の3勝達成!! (*^*)v

成果を競い合った。我
らがF・C・Sはビギ
ナーPクラスで出場。
西高東低の気圧配置
の中、参加者全員が額
に汗を流した。

初戦、本社支部FC
さりなちゃんと対戦。
F・C・Sのエースス
トライカー黒木のゴ
ールにより辛勝。伯仲
の戦いを繰り広げた。
2戦目、太田支部の
T A Z Z Y と対戦。前

試合で抜群の機動力を誇ったこ
のチームに対し、F・C・Sは全
員参戦で対応。結果として、0-
6で敗北を期すが部員全員に笑
顔が残った。

3戦目、港支部ナカシペーツ吉
田に対しFCS自慢、毎回得点の
点取り屋ヨネがゴールネットを
揺らした。この一点を難なく守り
快勝。

4戦目、千歳支部FCすねあて
が相手。F・C・Sの守護神松木

がキャプテン小山のアシストか
ら豪快に得点。旧FC新東京のプ
レィを彷彿させる華麗な攻撃ス
タイルに魅了された。

最終試合、相手は城北支部MA
N T I S (B)、2戦目、大敗を
期したT A Z Z Y と初戦で互角
に對したチームだ。ここで奥の手
手塚を投入。全員参加の醍醐味だ。
何故かボールが吸い寄せられる
ように集まるがなにか届かない。
しかし、今日のF・C・Sはここ
で終わらない。この日、初戦で得
点した黒木が、キャプテン小山の
出したパスに合わせゴール。この
まま逃げ切れればまさかの4勝!
ところが、ふとしたミスからシュ
ートを許し同点で幕を閉じた。

終了後、大将首家が今日の試合
を振り返りミーティングを開催。
今日の楽しさとチームの団結力
を組合活動にも発揮しつつ、楽し
むこと、仲間とともに力を合わせ
ることを重点に、F・C・Sは進
化し続け、来年につなげていこう
...と。

日 刊 新東京	No.775	2011年12月5日(月)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

「心ひとつに運動」被災地支援企画プロジェクト 被災地の復興等に向けた 取り組み企画案の募集

東日本大震災復興支援にご協力をいただき感謝申し上げます。

JP労組中央本部は、2011年度年間執行方針で「心ひとつに運動」の提案をおこない、その具体的取り組みの一つである「被災地支援」企画プロジェクトの取り組みについて、企画案の提案要請をしています。第1次募集期間において34件（東京は2件）の企画案が寄せられましたが、その実現性の可否について、現在、中央本部で検討をすすめています。

今回、あらためて「被災地支援」企画プロジェクトについて、第2次募集をおこないます。組合員の皆さんの豊かな発想力による被災地支援に向けた取り組み企画案の提案を要請いたします。

1. 「被災地支援」企画プロジェクトの概要

東日本大震災で津波などで甚大な被害を被った被災地復興に向け、「何ができるか」「できたらいいな」と思っていることの実現に向けた企画案を募集し、実現させていくプロジェクトです。

よって、被災地の復興等に向けた取り組み企画案を広く募集することとします。その際、一切の制約は設けませんので、ジャンルを問わず、アイデアベースでもかまいません。応募よろしく願いたします。

2. 応募要領

適宜の様式で、本部企画局まで、郵便もしくはメールでの企画案の提案をお願いします。

提案者の氏名・所属支部・職場分会・連絡先を明記の上、応募いただくようお願いします。詳しくは組合役員まで…

《宛先》〒110-0015 東京都台東区東上野5-2-2

JP労組本部 企画局「被災地支援」企画プロジェクト 宛
募集締切 2012年2月1日

第83回 メーデーポスター図案公募

連合よりメーデーポスター図案公募の要請がありました。メーデーは、1886年5月1日、長時間労働で苦しむアメリカの労働者が8時間労働制を要求して約35万人がストライキに立ち上がったことから始まります。現在では、労働者の祭典でもあり各種団体ブースや模擬店が出たりします。2011年のメーデーは大震災被害を考慮して、震災復興メーデーとして実施されました。

ポスター図案のコンセプトは、①震災からの復興・再生を軸に「雇用と生活の再建」を据える。②「働くことを軸とする安心社会」の意義と労働組合の役割や使命を組織全体で再確認する。③「すべての働く者の連帯を目指した社会的な運動」の実現に向けて、諸団体やNGO・NPOとの連携を強化するもの、となっています。※①～③のコンセプトに基づき、写真やイラスト等を用いたデザインとします。応募締切は、2012年1月20日（金）当日必着です。

応募要領 ①用紙は、A2サイズ・タテ（画用紙またはケント紙）

②1人1点に限る（2点以上応募した場合は応募無効）

③用紙の裏側に氏名、自宅住所、電話番号、

JP労組東京地方本部●●支部、支部の電話番号を必ず記入してください。

郵送先 〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11 6F

連合・連帯活動局気付「第83回メーデー中央実行委員会」

TEL03-5295-0513

入選 最優秀賞…1点（20万円） 優秀賞…3点（各10万円）

※最優秀作品は第83回メーデーポスター図案に使用する。

2普分会 忘年会のお知らせ

12月17日（土）18時20分～

場所. いけす道場魚屋

東陽町駅交差点、YMCA方面へ曲がるとすぐ夜
になると看板がギンギラですぐ見つかるよ！

地下1階への急階段は気をつけてね（特にTさん）

日 刊	JP新東京	No. 777	2011年12月7日(水)
		日本郵政グループ労働組合 新東京支部広報部	
		TEL 03-5606-6784 内線 4353	

2011年度 第4期 IT 広報セミナー開会

2011年11月15日(火)に、新宿NSビルのスカイカンファレンスにて第4期IT広報セミナーが開会され、東京都内の郵便事業、局、ゆうちょ、かんぽ、郵便輸送の様々な支部より総勢68名の参加者が集まった。

新東京支部からは2名の支部執行委員と1名の分会役員が参加し、今後の広報活動の推進と活性化を図る上で、重要な能力開発セミナーとなった。

まずはオープニングセレモニー後、東京地方本部の山内達也委員長より代表挨拶。教育活動の推進とリーダーの育成を強化し、組織の活性化を図る任務の重要性を講じた。

第1部では、企画力と発想力向上の一環として企画アイデア発想法の基礎、企画の再生産法、広告の役割、写真の画面構成を学び、情報収集と取材の仕方、原稿などを書く上での文章の書き方・まとめ方をインタビュー形式で演習した。

第2部では視線の動きを注視したレイアウトの構成法や紙面による効果の考察、表のビジュアル化などの講義後、ユニオン製作実習として実際の機関紙に準え、2時間という制限時間の中で制作をしなければならないという実践的なプログラムを行った。

今セミナーに参加した3名より感想を頂いたので、裏面にて掲載する。

ネタの探し方からはじまり、日刊紙を作成するにあたって基本的なスキルを身につける事ができました。

私は、ワードの使い方がそれまで不慣れでした。

写真をどのように自在に取り込むかなどは時に苦手でしたが、今回は実践を通して理解することができました。

支部執行委員 吉井亮介 (窓口課)

今回、IT広報セミナーに参加させていただき、情報を伝えることの奥深さを学びました。

自分が伝えたい情報をうまく伝えるために記事のレイアウトや写真の入れ方といった伝わり方、読みやすさのための工夫を学ぶことができ、とても良い勉強になりました。

窓口分会副分会長 川合健一

伝え方・伝わり方の基本事項から発想法や写真の撮り方まで、幅広い制作方法を知る事ができました。

また実践的なユニオン制作実習では、多角的に多面的に表現するアイデアを知る事ができたので、得る物が多く、実りあるセミナーでした。

支部執行委員 宮本豪 (第一普通郵便課)

東日本大震災寄附金 配分決定通知について

郵便事業会社と郵便局会社は本部に対し、東日本大震災寄附金配分決定通知に関する周知について説明を行ってきました。

東日本大震災による被災者の救助等に対する寄附を目的に「東日本大震災寄附金付かもめ〜る」と特殊切手「東日本大震災寄附金付」を発行し、販売を行ってきたところです。

これらの販売により、総額8億9,296万9,000円もの寄付金を募ることができ、12月1日、総務大臣の認可を受け、申請のあった特定被災地方公共団体へ寄附金の配分が決定されたもので、郵便事業会社及び総務省において報道発表を行うというものです。概要については、以下のとおりです。

なお、募られた寄附金については、配分決定された自治体において、①災害復興支援のための車両等整備（住民への緊急支援物資運搬のための災害対応車両、災害時緊急出動・災害復旧巡回用災害対応車両の配備等）、②避難所運営のための発電機購入、③災害派遣医療チームの機動性向上のための装備整備（医療活動に必要な装備：テント、投光機、発電機、簡易ベット）や被災地への医療チーム派遣用専用車両の配備等に活用されることとなります。

1 寄附金配分の概要

- (1) 配分自治体数 83自治体
- (2) 配分総額 8億9,296万9,000円
- (3) 道県別自治体数及び配分額

道県名	自治体数	配分額（千円）	道県名	自治体数	配分額（千円）
北海道	1	2,157	茨城県	9	45,815
青森県	4	21,140	栃木県	2	6,730
岩手県	14	186,157	千葉県	2	4,838
宮城県	21	260,690	新潟県	3	24,260
福島県	25	327,682	長野県	2	13,500

2 配分決定通知書の交付

(1) 12月1日(木)に、配分自治体への事前お知らせ、不採択自治体への通知書の郵送

(2) 配分自治体への配分決定通知書の交付

ア 交付方法

地元支店長より当該自治体への訪問の上、交付する。その際には、地元郵便局長にも同行してもらえるよう要請する。

イ 配分団体の了承が得られる場合は、交付の様様を取材してもらえるよう依頼する等、地元報道機関への情報提供を行う。

3 寄附をお寄せいただいたお客さまへのお礼文の窓口掲出

全支店のゆうゆう窓口及び郵便局のお客さまルームへお礼文を掲出する。

本部は、郵便事業会社及び郵便局会社に対し、特殊切手「東日本大震災寄附金付」は、販売率が低調であったため、当初の販売期間を9月30日まで5週間延長し、エリア一体で懸命に販売活動を行ってきた経緯にあることから、購入いただいたお客さまだけでなく、両社の社員に対しても感謝の意を表してしかるべきという申し入れを行いました。これに対し両会社は、社員に対し、別紙「特殊切手『東日本大震災寄附金付』等の販売に対する御礼」を各職場に掲出する等して、社員に感謝の意を表したいとの考えを示してきたことから、本件について了としたので周知します。

二普分会忘年会のお知らせ

2011年12月17日(土)

集合：18時20分 開会：18時30分

場所：いけす道場魚家(東陽2-5-18)

会費(当日徴収) 正社員(再任用含む) ¥3000

ゆうメイト(組合員) ¥1000

ゆうメイト(未加入) ¥2000

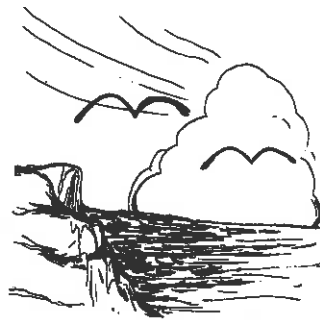
2次会：ドレミファクラブ(21時より別会計)

離島の現状

東京都青ヶ島

郵政民営・分社化以降の離島の現状はどうなっているのだろうか。今回は伊豆諸島の青ヶ島だが、今回は伊豆諸島の青ヶ島。東京都の小さな離島で人口は200人たらず、八丈島から船とヘリが通っている。日に1便の船の欠航率は5割を超す。

島の郵便局は小さな局舎に局長以下2名の職員と1名の臨時職員計4名であったのが、事業会社が3名の職員と委託会社の1名の計8人に増えているという(この形は利島、御蔵島も同じ)。職員の人数は倍に増えた



が、次のような不都合が生じている。

①今は同じ局舎で会社が別なので郵便物の引渡しの手続き上、船舶等への締め切り時間が早くなり島民に迷惑をかけている。

②島へ来る観光客にとって、めったに來れない島から「青ヶ島」の消印で郵便物を出すのが何よりの楽しみだが、ポストから出すと消印は「新東京支店」の消印となる。がっかりする観光客に申し訳ない。孤島に渡った思い出の消印がこのようなことになるとは……。

③郵便の送達日数がかかるようになった。経費削減のため、船の欠航が続いてもなかなかヘリ便を使ってもらえない。

④預金・保険の手続きが複雑になってお客様にかかる時間が長くなった。おまけに為替手数料が高くなった。

4月27日の「郵政等3党合意を実現する会」での佐渡市長の講演記録より

日 刊 新東京	No. 780	2011年12月12日(月)
	日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部	
	03-5606-6784	内線 4353

働く喜び感じていますか？

働きやすい職場にするために！

年末繁忙真っ只中ですが、新東京支店で働く皆様お疲れ様です。
先週末賞与が支給されましたが、右から左、いやそれでも足らずに困ったという方もいらっしゃるかもしれませんね。

しかし、業務は待ってくれません。郵便局にとって年末は、年賀状やお歳暮で忙しいけれど、貴重な収入源であることは間違いのないところだと思います。

今回、そんな中でも、働きやすい職場を作ることが、自分たちの幸せに繋がるのではないかというお話をさせていただきたいと思います。

皆様は、各職場で日常の業務を行っていて、疑問に思うこと、改善したらいいなと思うこと、いろいろと感じていると思います。

是非それを、声に出していただきたいのです。

言っても変わらない、言うとは損をするなど、後ろ向きな気持ちだと絶対に職場は良くなるし、変わりません。

組合は、働く人の立場で動く組織です。

前向きな提案には、もちろん前向きに対処します。

ですから、声を出すことを恐れなくて頂きたい。

一人一人が働きやすい良い職場にしようと少しでも考えれば、少しずつでも変わっていくと思うのです。

一人でも多く組合活動に参加を！

喜びを共有するために

いつか誰かが言ってくれるだろう、では、動きません。気付いた人が気付いたときに行動するのが一番です。

ですから、他人任せにはしない。

改善されたときに喜びを共有しましょう。

組合は、活動する原資として組合費を集めています。社員は年齢別に、その他の方は、在籍別に金額が決められています。

パートナー社員の方が一番低く月額 1000 円です。

この金額は高いでしょうか？

金額を下げるとほとんどの方が参加されるか？など、考えました。しかし、現状の金額も相互扶助のシステムで運営されていて、組合員全員でカバーしているのです。よって、残念ながら減額することは不可能でしょう。

そこで、高いと思わない考え方をご紹介します。

組合員特典として、各種施設・サービスの割引がありますが、特にお薦めなのは、レジャー施設の利用券を無料で入手することが可能だということです。

私の経験からすれば、半分以上の確率で当選しています。それらを利用することにより十分に元を取ったと思っています。

これは、ほんの一例ですが、組合員として発言し、職場を変えて喜びを共有する。このことが一番の利益であると信じてやみません。

組合未加入の方お待ちしております

日刊
ア新東京

No.781

2011年
12月13日(火)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

新2特分会 分会合議

旧2特分会・旧3特分会がひとつになり新たなスタート

「仕事は依然としてバラバラですが共通の分会となりました、一緒に協力して頑張りましょう」と2特分会高木新分会長のあいさつ。

10月に新東京支部の運営細則が改正されたことに伴い、旧2特分会、旧3特分会は新たな「2特分会」となり分会が一つになりました。

そのため新たに分会体制を作り直すために両分会で協議を重ね、新たな役員体制を確立して新2特分会の

第1回分会合議を12月6日に開催することができました。佐々木前分会長の司会により合議が進行していきましました。

まずは、高木分会長が役員の指名を行い、各自が自己紹介をしてから「プレッシャーですが一緒に頑張りましょう」「何ができるかわかりませんがよろしくお願いします」「今年一年頑張ります」「微力を尽くして頑張ります」「雑用係ですが頑張ります」

「一人で悩まないで相談しながらやっついていこう」と抱負を話してもらいました。

分会の具体的な運営について協議しました。職場の問題点集約の方法や署名、動員、広報活動の充実にむけた取り組み、配布物の扱い、分会合議の開催方法などについて今までの取り組みを振り返りながら新しい形を論議しました。分会合議を月一回定期開催していくことが確認されました。そのなかで新たな協力者も作り出すことができました。

11月下旬から現在までの各職場の状況について意見を出し合いました。「二階の通路すらなくなるくらいカレンダーがあつた。防災上も心配」「トラック入り口で何度もニアミスがあつた」「仕事が忙しくて、何度も休憩時間をずらしている。休んでない人もいる」「トラックが到着していてもエレベーターでパレットを上げる人がいない」「去年、痛い目に遭っ

ているのに何も改善されない。あきれちゃって何も言いたくない」「ケース足りない、トラックこない、パレットおろせない」「絶対結末無理の状況」「責任者はケースが無いから何とか工夫してくれ...と言うだけ」「遅れてくる到着便を失死な思いで、懸命な努力によって差立をしましたが、問題は何にも無し...と報告されているのであればマズイ」などなどたくさん意見が出ました。

10月に提出した支部年末始繁忙要求の当局回答を検討しました。とりわけ、ベテランが多く退職したため多くの残(未処理)を出している。65才定年後のあと補充は「募集を行っている」との会社の回答通りに、一刻も早くあらゆる手を尽くして補充してもらいたいと全員が一致しました。年末繁忙について「業務研究会等で丁寧に周知...」となっているが、現実とは乖離があること、大学入試繁忙について再度投げかけてい

こう、と意見を出し合いました。また、支部組織拡大会議の報告がなされ、今後の取り組み方針を協議しました。

当面の予定として1月29日支部ポウリング大会、2月5日支部委員会・「脱原発」学習会、2月19日20日分会代表者宿泊会議、3月10日退協主催「忘れてはならない東京大空襲」を確認しました。

最後に、11月に宮城県石巻市へ行き被災地を見た役員から「テレビで見たのとは違う、はつきり言っている。国に早くやれと言いたい」と感想を述べてもらいました。

高木分会長から「第1回会議お疲れ様でした」と閉会の言葉があり終了となりました。

新たな2特分会がスタートしました、一致団結して職場の改善・労働条件の向上を目指して頑張っていきたいと思います。

支部長
執行委員

分会長
副分会長
書記長
書記次長
分会幹事

石井	荒牧	下山	本間	小島	佐藤	田中	前田	瀬間	山内	田辺	刈谷	鹿野	千葉	佐々木	伊藤	高橋	稲葉	木村	福井	岩崎	勝瑞	亀井	高木
直	栄司	薫	博文	孝之	和代	洋児	吉雄	里美	修	恒芳	優一	慎一	賢朋	隆	昌広	正樹	陽介	健一	直之	和幸	邦晃	茂之	

日刊
JP新東京

No.781

2011年
12月14日(水)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

第二普通郵便課は、今… 九月から延々と続く「繁忙期」

組合員の皆さん、連日の業務お疲れ様です。十二月も半ばを迎えて、各職場とも年末繁忙で大変だと思えます。しかし、大型通常を取扱う第二普通郵便課では、九月からずっと繁忙期が続いている状態です。他課からの業務応援は当たり前前、管理者の土・日出勤、当然ながら、

二普に働くゆうメイト・社員の超勤・マル超・廃休等々、業務確保のためにあらゆる手を尽くしていますが、いっこうに業務運行がうまく進みません。ある二普のベテラン役職組合員は、「結束という言葉が、なんだか懐かしくて、むなしく聞こえる…」と嘆いています。また、

二普で永年働く組合員も「こんなひどい年末は、初めてだ」と言います。今の二普には、働きがいや誇りが感じられなくなってきたという雰囲気蔓延しつつあると言ったら、言い過ぎでしょうか。



二普の業務確保困難の原因はいろいろとあるとは思いますが、一番の要因が新型パケット区分機更改に伴うものであることは、誰の目から見ても明らかです。職場では九月の時点で「年末はどうなるんだろう？」と心配の声が上がっていました。【裏面へつづく】

【表面よりつづく】

的な対策もとらない(とれない?)まま、結局、パンク状態となりました。新型パケット区分機の性能もさることながら、付帯する業務(例えばケース到着ラインや空ケースライン)が合理的につくられていません。パケット区分機の厚物処理が遅れるために、棚物のフラット区分機処理にも大きく影響しています。

二普では、春にメインとなる深夜帯のゆうメイトの雇用契約を12H新夜勤から10H深夜勤へ変更し、九月末には65歳定年制によるベテランゆうメイトの退職がありました。業務的にもアマゾンゆうメールの全国展開や

DMM追跡ゆうメールの差立等等、新施策と労働条件の変更等も同時期に進行したことも業務困難さの原因の一部だと言われています。

会社の計画通りにパケット区分機は更改されました。年末繁忙を見越して、業務まわし等で現場が慣れる時間も考慮して九月だったと思います。しかし、慣れるどころではなく、残念ながら実態は、取扱物数増に追いつかずに、現場で働く者へ過度の負担増を強いる「綱渡りの業務運行」の毎日となっています。

このまま年末が過ぎると、次のヤマ場は、三月の年度末です。組合でも何とかさすべく実際に現

場で働く組合員の皆さんの知恵を集約したいと考えます。目の前のブツの山を掃くことに精一杯にならざるを得ない現実があるにしても、どう現場の業務をスムーズにまわるように再生させていくか、管理者の皆さんにも「ブツ処理」ではなく、「本来業務」としての力の発揮を求めたいと思います。

支店としても、二普に限った事ではありませんが、社員が自らの職場と業務に「働きたい」や「誇り」が感じられるように、「上意下達」ではなく、「風通しのよい職場」の実現を本気で進めるように強く求めていきます。

日 刊
JP 新東京

No. 783

2011年
12月15日(木)

日本郵政グループ
労働組合
新東京支部
広報部

03-5606-6784
内線 4353

東京地本中央連絡協議会主催

パートナー組合員交流会盛大に開かれる！

11月23日(水)勤労感謝の日(主催者曰く、いいふみの日)、日暮里ラングウッドで東京地本中央連絡主催のパートナー組合員交流会が開催された。

新東京からは岩井副支部長、菅家執行委員、パートナー組合員の郷田さん、石山さんの4名が参加した。

冒頭、内山中央連絡協議長から開催に当たり挨拶がなされ、パートナー社員の雇用や賃金についての問題点とこれまでの成果、組合のみならず会社にとっても重要な

存在となるパートナー組合員の更なる処遇改善にむけ行動を強化することと同時に、現在の事業の状況から、今年末繁忙期は絶対には失敗は許されないことの説明があった。

その後第Ⅰ部として、出席者を3グループに分け、引率の執行委員が司会でグループ討論が行われた。各グループ、様々な支部からの参加者で構成され、所属する会社も異なることから、進行を務めながらも学び知ることが多々あった。

第Ⅱ部は、中野執行委員から共済制度について、及川執行委員から組織建設について事細かく説明があり、第Ⅰ部同様、グループに分かれて話し合いがなされた。グループ別の話し合いによりフラットで幅の広い話し合いが出来たと思う。また、日頃から誠心誠意、事業に貢献されているパートナー組合員の皆さんの雇用環境がよりよいものになるよう、今後コミニケーションを十分に図る責任を感じつつ交流会は閉会した。

その後、懇親会が開催された。当日は、東連協でも同所で交流会が行われていたため、懇親会は合同で開催された。ここでもたくさんの方の意見を聞くことができた。本日に事業を再生するならば、一人ひとりの意見を丁寧に聴き、不安や不満を払拭することが重要だと改めて実感した。

東北大震災から9カ月が過ぎた。先日、新聞を読みながらふとある記事に目を奪われた。陸前高田市の高田松原にある国の名勝にも指定されていた七万本の松のうち、震災の大津波にも負けず奇跡的に残った一本松がある。この「奇跡の一本松」は、私が、大船渡へボランティアで行った時も、地元の方が復興の象徴として、夢や希望を見出し前に進む勇氣を与えていた。復興のシンボルとして保存する方向で計画されているはずだったが、震災で地盤が80cmも沈下し、海水を多く含んだ地下水を吸い上げ根腐れが起こり保存を断念せざるを得なくなったそうだ。大津波の中でも様々な幸運が重なり、奇跡的に倒木することなく現地に夢や希望を与え続けてきた「奇跡の一本松」の保存断念は残念で仕方がない。しかし

ながら、いつ倒れるか分からない30mを超える巨大な松の木を保存し続ける困難さも理解できる。幸い一本松から採取した枝から9本の接ぎ木が成功した話を聞く。場所を変え、東北の「負けじ魂」は生き続けていくことに期待し、私達もずっと応援し続けていきたい。

(毎月11日は東北支援の日)



奇跡の一本松

大津波をのりこえて

新東京新聞

新東京新聞

《 お 礼 》

11月期は各種署名行動へご協力いただきましてありがとうございました。お預かりした署名は、東京地本または実行委員会へそれぞれ郵送させていただきました。ここに集約総数を掲載させていただきます。

○冤罪防止の法制化を求める署名……………586名分

○さよなら原発一千万人署名……………638名分

2011-2春季生活闘争の 進め方と今日的状況

今年の2011春闘は、郵便事業会社の危機的な経営状況を踏まえ、かつて経験したことのない一時金年間3・0月という大幅な引き下げとなりました。労使の交渉の結果だとはいえ、JP労組組合員に大きな負担をかけてしまっている。

この間、開催された各級機関会議のなかで、多くの意見が出されています。民間企業としての春闘のあり方が議論されているところです。

全国大会において、春闘の要求決定プロセスの見直しを図られ、明年2月に開催される第9

回中央委員会の場で、要求が決定されます。

とりわけ、11月に発表される組合の機関紙でも触れているように「中間決算」の状況は、私たちの賃金交渉（一時金要求）にも大きく影響を与えることは必死です。職場段階において様々な收支改善の施策が実施される「郵便再生に向けてバージョン1」を受けて、職場の意見を聞き、取り組まれることとなつていく「バージョン2」が、真に改革改善の柱になることが必要です。

2012年度（平成24年度）の単年度黒字を目指す労使の取り組みは、私たちの事業展望を

左右する大きなものです。各種施策に、的確に対応をはかることはもとより、労働組合としてのチェック機能発揮が今以上に求められています。

最繁忙期を迎える今日、労使ともに緊張感を持った日々の取り組みが、今まで以上に重要となっていくます。

今年の春闘で継続扱いとなった「特別報奨金」の扱いも、年末の状況を勘案してと主張する会社の発言もあり、年末始は今までも増して正常な業務運行と、収益の改善が求められています。各組合員の御理解とご協力を改めて要請します。

新東京支部 支部長 下山 薫

支部の当面の予定として

- 1月18日 支部執行委員会
- 1月29日 支部ボウリング大会
- 2月 5日 支部委員会・「脱原発」学習会
- 2月19日 分会代表者宿泊会議（一泊）
- 3月10日 「忘れてはならない東京大空襲」
- 3月11日 東日本大震災1年（企画未定）

医療共済 マイガードに入ろう 加入随時募集中

割安な掛金の医療共済です。補償額が入院1日、3千円、5千円、1万円から選べます。病気、入院などの医療に関する保険に加入していない人はまず入っていた方が良い共済です。入院、手術や骨折、1日入院なども対象となります。病気が発見されてからでは加入できませんので、検査を受ける前に加入しておきましょう。不規則な勤務での疲労の蓄積は、思わぬ病気を引き起こします。ぜひとも検討を…。詳しくは組合役員まで

**忘年会の時季となりました
飲酒後の自動車の運転は絶対にやめましょう！！**

中間決算を受け特別労使協議会を開催 郵便再生ビジョンver.2に向けた検討状況

1. これまでの経過

(1) 特別労使協議会の開催

J P 労組中央本部は、平成24年3月期中間決算および通期見通しの発表を踏まえ「郵便再生に向けた特別労使協議会（以下、特別労使協議会という）」を開催しました。郵便再生に向けた労使協議は、月次業績や郵便再生施策の進捗をチェックし取組全般を協議する専門委員会を中心に進めていますが、郵便再生を進めるうえで最初のヤマ場である中間決算が明らかとなったことから、特別労使協議会を開催し今後の取り組みの方向性等について、議論をおこなうこととしたものです。

特別労使協議会の冒頭、鍋倉社長から、「23年度中間決算を公表した。今年度上期については、郵便物数が引き続き減少傾向にある中、一連の収支改善施策に取り組んだことにより、依然として大きい赤字額であるものの、想定を若干上回るものとなった。郵便再生の取り組みには、大きな三つの山があるものと考えており、何とか一山目は越えられものと考えている。今後、23年度通期という2つ目の山、さらには24年度の黒字化という3つ目の山が待っている。さらに厳しい環境の中で何とか乗り越えていかなければならないと思っている。郵便再生に向けたビジョン・バージョン1については、社員や組合支部の皆さんから約3万件にのぼるご意見をいただいた。当初は11月中旬を目途に労使でバージョンアップを行い、中間決算の公表後できるだけ早くビジョン・バージョン2として示したいと考えていたが、現在、いただいた意見を精査し、有意義な意見をできるだけバージョンアップに反映させていくという作業を行っており、バージョン2の検討状況という形で示したもの。今後、協議を深めより良いものに仕上げていきたい。郵便再生の三本柱の一つとして、本社としても、現在、仕事のやり方の見直しに積極的に取り組んでいるところ。最前線の現場でより柔軟な対応が可能となるように、これまでも可能なものから、支社・支店への権限委譲を進めており、今後も文書・報告類の削減など、職場が働きやすい環境づくりに取り組んでいく。一方、J P 労組の全国大会や中央委員会では、現場では変化が見えないという意見が多く提起されており、我々としても、これまでの取組が現場に浸透していないことについて反省しており、今後は、キチンと取組の見える化にも留意しながら、企業風土改革に取り組んでいきたい。」とあいさつが

ありました。

J P 労組を代表してあいさつした戸田副委員長は、「中間決算の現れた数値は、組合員の努力の結果であり、組合員のモチベーション維持のため、通期見通しに反映すべきである。通期見通しの変更はおこなわないとする判断は、ひとまず受け止めるが、会社は、組合員の思いを強く受け止め、下期にあたるのが重要である。中央委員会では、職場での周知・浸透が出来ていないとの意見が多くあった。具体的施策も必要だが、その意味合いを社員一人ひとりにきちんと理解・浸透させることがまず重要であり、今後の取り組みを通じてしっかりと浸透をはかる必要がある。会社も企業風土改革に向け取り組みを進めているが、会社の本気度を示すことが重要であり、組合員が実感できる伝え方をする必要がある。まずは、労使で確認したことを職場で徹底し、各職場のリーダーたる組合役員が職場の変化を実感できる取り組みを進めるべき。」として、会社に対し郵便再生に向けたこれまで以上の強い取り組みを求めました。

2. 「郵便再生ビジョンver. 2に向けた検討状況」の位置づけ

示された「郵便再生ビジョンver. 2に向けた検討状況」は、ビジョン・バージョン1を踏まえたバージョン2策定の検討状況を示したものであることから、バージョン1の位置づけ等を再確認したうえで、その内容を見る必要があります。

内容は、バージョン2の作成に向けた現時点での検討状況を示したものとなっています。バージョン2は、今後、平成24年度の事業計画に合わせて示される予定となっています。（2月末頃となるものと想定しています。）バージョン2は事業計画策定と連動したものとして「平成24年度単年度黒字を確実なものとし、成長の基盤づくりの取り組みを示すもの」と位置づけることができます。

3. 今後の対応

中央本部は、郵便再生の取り組みを着実に推進するため、今後も継続して、月次業績等の進捗チェックをおこなうとともに、第8回中央委員会以降、バージョン2策定に向けたJ P 労組意見を会社に提出し、今日まで公式・非公式協議を深めてきました。今般会社が示した「郵便再生ビジョンver. 2に向けた検討状況」は、これまでの労使協議の途中経過として、各機関に周知することとしたものです。バージョン2は、平成24年度事業計画と連動した検討となることから、郵便再生における当面の最大の課題である平成24年度営業黒字を確実に実行できるものとするため、地本書記長会議において、平成23年度アクションプランの進捗等について共通認識をはかるとともに、バージョン2策定に向けた組織内議論を深め、特別労使協議会等での労使協議にあたることとします。

「郵便再生ビジョンver. 2に向けた検討状況」は、支部事務室にあります。

日
刊

新東京

No.789

2011年12月26日(月)

日本郵政グループ労働組合 新東京支部 広報部

03-5606-6784

内線 4353

いま、特別報奨金の話し合いは どのようなになっているのか

2012年春闘の向けての交渉状況

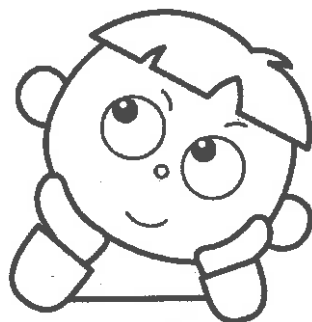
中央本部は、特別報奨金に関する支給基準や額について早期に明らかにするように、会社側に強く求めています。

会社側 (11月15日)

「年度末の業績が見通せる段階にならないければ、具体的交渉を行うことは困難。とりわけ、郵便事業会社は、この年末に年賀はがきをどれだけお買い上げいただけるか、そして、年末年始の業務運行におけるコストコントロールが適切にできるか、という23年度の業績に極めて大きな影響を及ぼす課題を抱えており、その結果としての経営数値が明確にならないければ具体論に入っていけない」(従来の主張を繰り返す)

中央本部

「現場は営業を含め懸命に頑張っている。稼ぎ時のこの時期が大事だからこそ、早期に特別報奨金の支給基準や額を明らかにし、組合員のモチベーションを高めることこそ大事である」(論議は平行線)



会社側（12月7日）

「特別報奨金は、年度末に目標を大きく上回るなどの業績が見込まれる場合に支給するものであり、会社間に業績格差が生じることが想定される現状においては、各社一律の額を前提とするものでないことを理解されたい。しかし、各社間で大きな差が生じないように検討することは、郵政グループ全体の理念からしても適切なのではないかという観点に立ったものである」（従来主張を繰り返し論議は平行線）

今後のどのように取り組んでいくのか

- ・ 12月の月次業績について早期に取りまとめ、JP労組に明らかにして具体的交渉に入るよう要請。
- ・ 会社側の主張に変化はなく、年末の業績が明らかになってくる1月下旬が山場にならざるを得ないと判断。
- ・ 今後も持株会社にグリップさせつつ、年賀はがきの販売状況や年末始の業務運行コストを注視していく。
- ・ 郵便以外の各社の月次業績も説明させ、交渉の山場に備えていく。
- ・ 支給の重要な判断材料となる年賀営業・コスト削減に労使の最大限の力を傾注する。
- ・ 組合員の努力に報いる措置である特別報奨金の支給に向けて交渉を強化します。

特別報奨金とは今年の春闘妥結時に
回答が出されたもの↓

「会社側から年度末において目標を大きく上回る等の業績が見込まれた場合には、各社において「特別報奨金（仮称）」を支給することを検討する」という最終回答を引き出しましたが、会社側は、「特別報奨金（仮称）」については、各社において検討することになるが、グループ全体の理念をふまえて検討することが基本である」との認識を示しているところです。